

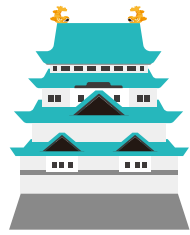


A

AICHI IEYASU
Sengoku picture scroll

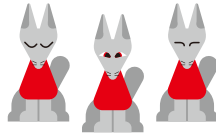
あいち
家康
戦国
絵巻

あいち武将観光ガイドブック



舞台はあいち、時はいま。

厭離穢土欣求浄土



A

AICHI IEYASU
Sengoku picture scroll

あいち
家康
戦国
絵巻



あいち武将観光ガイドブック
あいち家康戦国絵巻

2022年10月発行

発行 愛知県観光コンベンション局観光振興課
愛知県大河ドラマ「どうする家康」観光推進協議会
監修 小和田 哲男(静岡大学名誉教授)



AICHI-NAGOYA



イントロ 1
 信長・秀吉・家康
 三英傑相関図 3
 武将のふるさと愛知
 ゆかりの武将たち、姫たち 5

【コラム】大河ドラマ時代考証者寄稿文①
 小和田 哲男(静岡大学名誉教授) 7

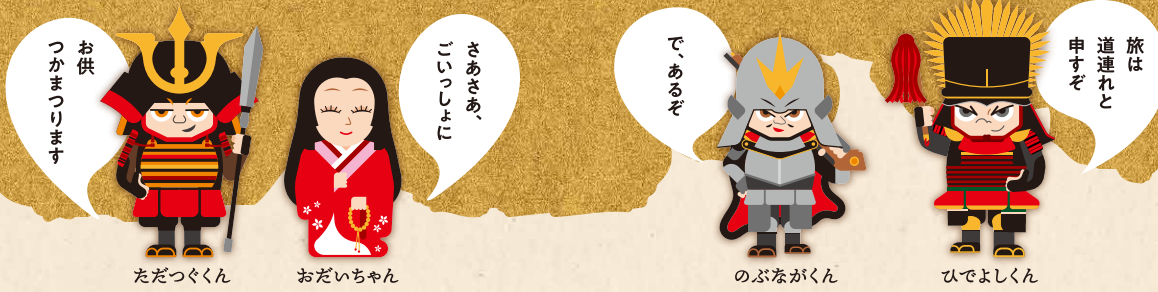
武将のふるさとゆかりの地 I

尾張エリア 9
 名古屋エリア 13
 武将のふるさと愛知
 武将・姫ゆかりのモノがたり
 【名古屋編】 16
 知多エリア 17
 西三河エリア 19

【コラム】大河ドラマ時代考証者寄稿文②
 平山 優(歴史学者) 23

武将のふるさとゆかりの地 II

東三河エリア 25
 武将のふるさと愛知
 武将・姫ゆかりのモノがたり
 【西三河・東三河編】 28
 武将ゆかりの祭りイベント 29

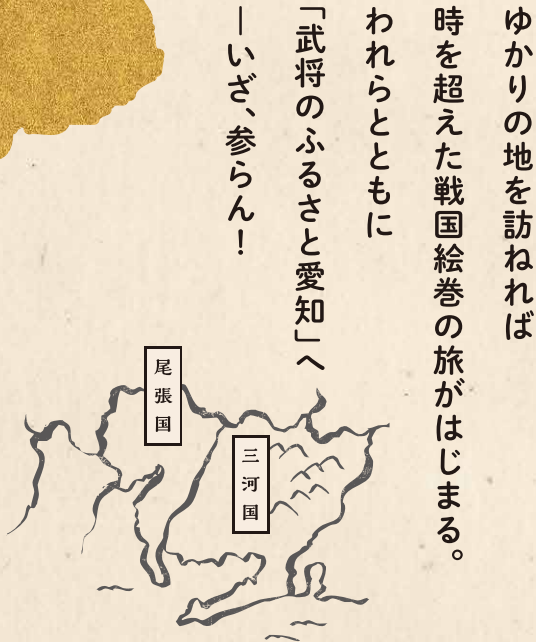


ただつぐくん

おだいちちゃん

のぶながくん

ひでよしくん



ゆかりの地を訪ねれば
 時を超えた戦国絵巻の旅が始まる。
 われらとともに
 「武将のふるさと愛知」へ
 ーいざ、参らん！

ようこそ
 「武将のふるさと愛知」へ



尾張国、三河国が

ひとつになった愛知県は

戦国三英傑ー

織田信長、豊臣秀吉、徳川家康をはじめ

個性豊かな戦国武将を

数多く輩出した「武将のふるさと」じゃ。

そのため愛知県内には

武将ゆかりの城や古戦場、

寺社をはじめ武家文化、

さらにまつり、イベントが豊富にある。



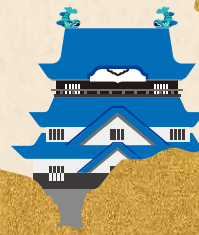
交通のご案内

新幹線	新大阪	49分	名古屋駅	1時間35分	東京	
近鉄特急	大阪難波	2時間5分				
飛行機	中部国際空港	名鉄29分				

*所要時間は最短です。ご利用の便により変動します。

「Aichi Now」
 交通アクセスページ

愛知はココ!

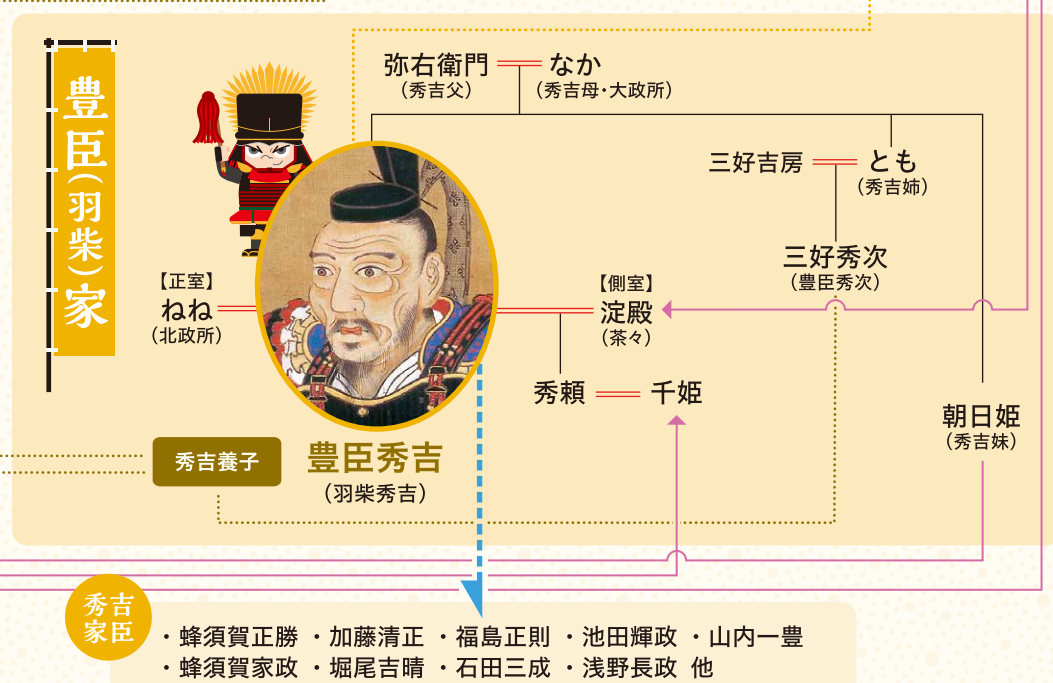
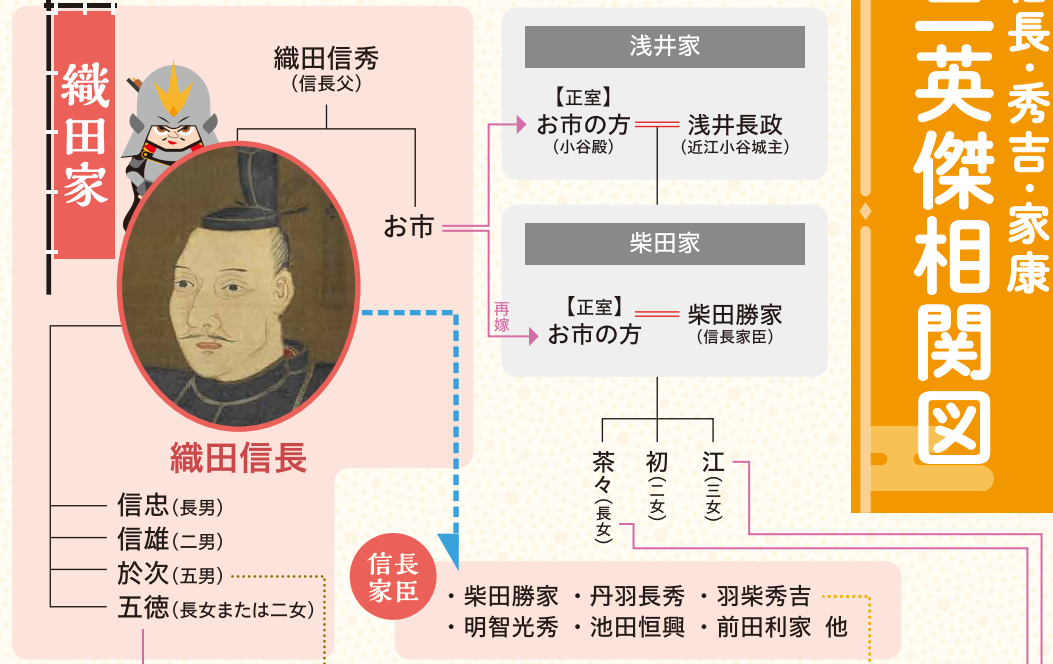
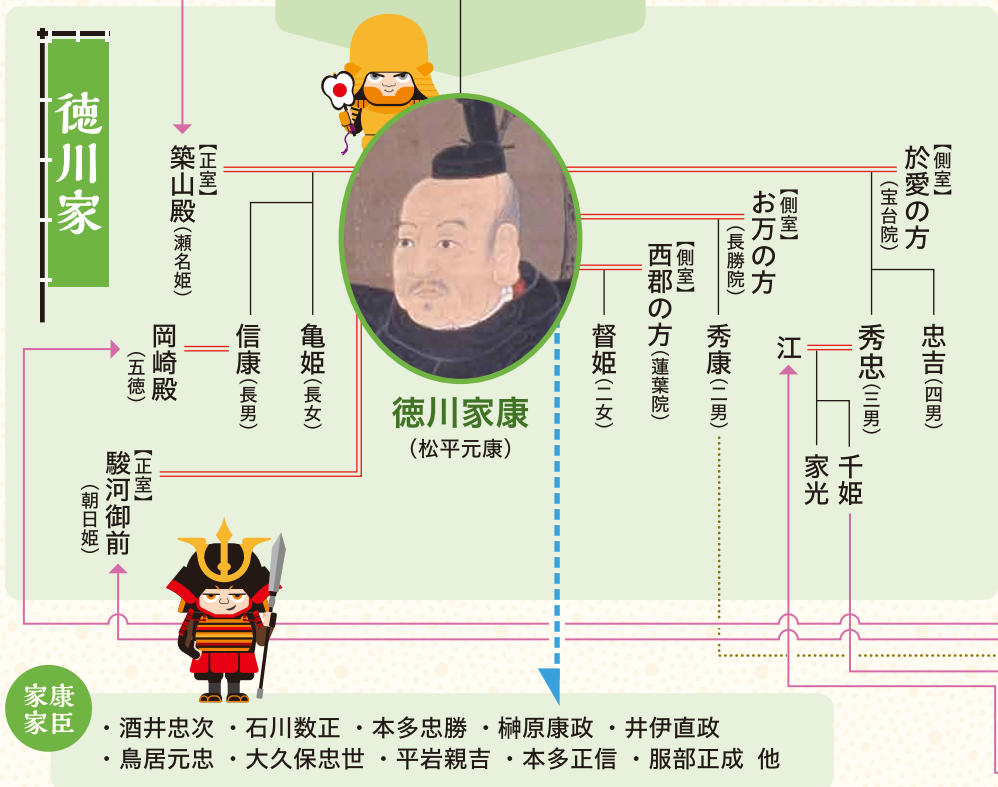
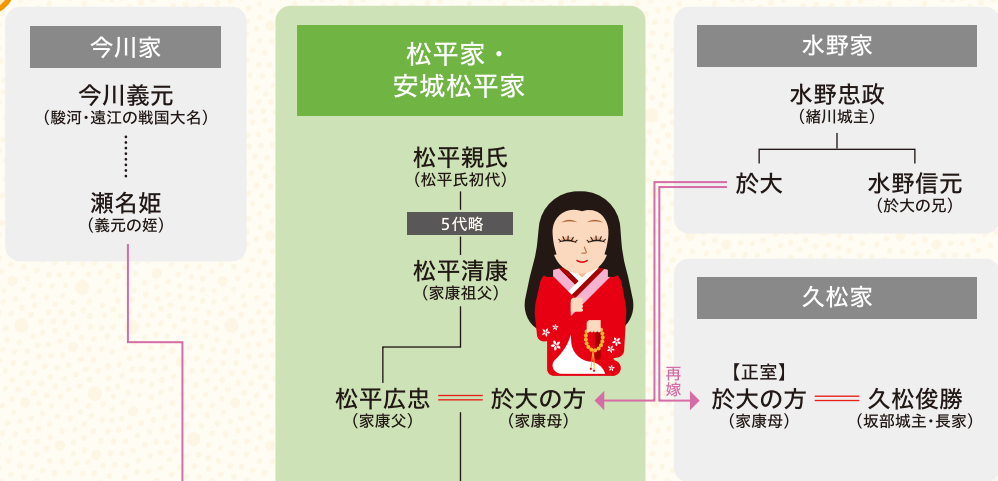


*各史跡、観光スポット紹介に掲載したQRコードは、愛知県公式観光サイト「Aichi Now」または、各自治体や団体の管理する観光サイトにアクセスします。

*城の名称や曲輪等の名称は、管理している自治体ごとに「〇〇城」、「〇〇城跡」、「〇〇城址」や「二の丸」、「二ノ丸」、「二之丸」とつけられていますが、この冊子では城の名前は「〇〇城」、曲輪の名称は「の」の字で表記を統一してあります。

いえやすくん

信長・秀吉・家康 三英傑相関図



主従関係 (Blue dashed line) 婚姻関係 (Red solid line) 養子 (Dotted line)

*織田信長画像(神戸市立博物館蔵)、豊臣秀吉画像(名古屋秀吉清正記念館蔵)、徳川家康画像(岡崎市美術博物館蔵)

*戦国期の女性の名前は正確には分からない場合が多く、さまざまな尊称も加わり複数伝えられている。信長妹のお市は市姫とも伝えられ、浅井家に嫁ぎお市の方、小谷殿とも呼ばれた。秀吉妹の朝日姫(旭姫とも書く)は家康に嫁ぎ、駿河御前とも呼ばれた。

*羽柴秀吉は、天正十三年(1585)、関白に任じられ朝廷より「豊臣」氏を賜り、豊臣氏に改姓したが、名字は終生「羽柴」のままだったとされる。上記相関図では、信長家臣の枠内では「羽柴秀吉」とし、豊臣(羽柴)家の枠内では「豊臣秀吉(羽柴秀吉)」としている。

織田信長 1534年 尾張国勝幡城生まれ(稲沢市、愛西市)
桶狭間の戦い、美濃攻めを経て、室町幕府を再興し勢力を拡大。天下統一を目前にしたが、明智光秀の謀反に遭う。

織田信雄 1558年 清須城生まれ(清須市)
信長二男。賤ヶ岳の戦い後、家康とともに秀吉と戦う(小牧・長久手の戦い)。

柴田勝家 生年は不明。尾張国下社城または一色城生まれ(名古屋市中東区)
信長死後、秀吉と戦い敗れる(賤ヶ岳の戦い)。

池田恒興 1536年 尾張国海東郡生まれ(詳細は不明)
または同郡荒子生まれ(名古屋市中川区)
母は信長の乳母。清須会議後、秀吉に従属。小牧・長久手の戦いで戦死。

前田利家 1537年 尾張国荒子城または前田城生まれ(名古屋市中川区)
賤ヶ岳の戦い後、秀吉に従属。家康とともに晩年の秀吉を支えた。

豊臣秀吉 1537年 尾張国愛知郡中村生まれ(名古屋市中村区)
貧農の出だが、信長に仕え出世を果たす。信長死後、ライバルを退け天下を統一する。

加藤清正 1562年 尾張国愛知郡中村生まれ(名古屋市中村区)
秀吉没後に家康に接近。築城の名手。熊本城の他、名古屋城天守台石垣を築いた。

福島正則 1561年 尾張国海東郡二ツ寺村生まれ(あま市)
秀吉の縁者とされる。秀吉没後に家康に接近。関ヶ原の戦いで活躍。

池田輝政 1564年 尾張国清須生まれ(清須市)
秀吉の天下統一後、吉田城主に。秀吉の命で家康二女・督姫を娶る。

山内一豊 1546年 尾張国黒田城(一宮市)または岩倉生まれ(岩倉市)
秀吉没後に家康に接近。関ヶ原の戦いで功績。

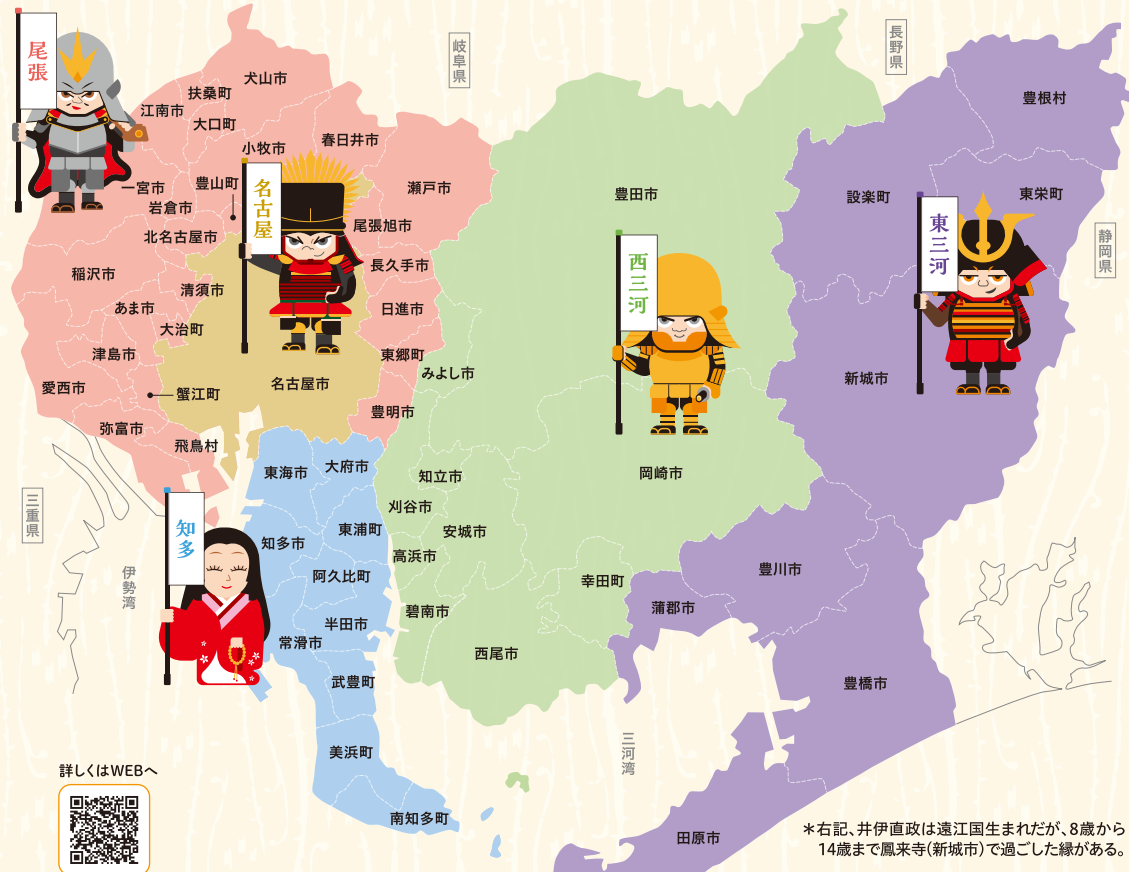
堀尾吉晴 1543年 尾張国丹羽郡御供所村生まれ(大口町)
秀吉に仕え、小田原攻めで功績。秀吉没後に家康に接近。

お市の方 1547年 尾張国那古野城生まれ(諸説あり)
信長妹。近江小谷城の浅井長政に嫁ぐが離別。清須会議後、柴田勝家に嫁ぐ。

武将のふるさと愛知

ゆかりの武将たち、姫たち

愛知県は織田信長、豊臣秀吉、徳川家康一戦国の三英傑とその配下の武将や姫たちを数多く輩出した「武将のふるさと」。彼らは天下静謐・天下泰平を願い、乱世を駆け抜けた。



詳しくはWEBへ



*右記、井伊直政は遠江国生まれだが、8歳から14歳まで鳳来寺(新城市)で過ごした縁がある。

水野信元 生年は不明。尾張国緒川城生まれ(東浦町)
於大の兄。家康の伯父。信長と家康の同盟を仲介した。武田家との内通を疑われ切腹。

於大の方 1528年 尾張国緒川城生まれ(東浦町)
松平広忠に嫁ぎ家康を産むが、後に広忠と離別。坂部城の久松俊勝(長家)に再嫁。

本多正信 1538年 三河国碧海郡小川村(安城市)
または西尾城(西条城)生まれ(西尾市)
三河一向一揆では一揆側に加担したが、のち許され家康の側近となる。

服部(半蔵)正成 1542年 三河国額田郡伊賀村生まれ(岡崎市)
父は伊賀忍者だが正成は武士として家康に仕えた。後、伊賀者を配下にして活躍。

徳川家康 1542年 三河国岡崎城生まれ(岡崎市)
信長と同盟を結び、数々の戦いに協力。秀吉政権では重鎮の地位を獲得。関ヶ原の戦い後、征夷大將軍に任ぜられ、江戸に幕府を開く。

酒井忠次 1527年 三河国井田城生まれ(岡崎市)
家康若年時から家老として軍事、内政、外交で活躍。徳川四天王の筆頭。

石川数正 生年は不明。三河国小川城生まれ(安城市)
酒井忠次とともに内政、外交に活躍。小牧・長久手の戦い後、徳川家を出奔し秀吉に仕えた。

本多忠勝 1548年 三河国西蔵前城生まれ(岡崎市)
徳川四天王のひとり。生涯57回の合戦に参加し、無敗無傷の勇将だった。

榊原康政 1548年 三河国上野郷生まれ(豊田市)
徳川四天王のひとり。小牧・長久手の戦いの際、秀吉を痛烈に批判した檄文により秀吉を激怒させた。

井伊直政 1561年 遠江国井伊谷生まれ(静岡県浜松市)
徳川四天王のひとり。武田家旧臣を配下に入れた軍団「井伊の赤備え」を率いた。

鳥居元忠 1539年 三河国渡城生まれ(岡崎市)
家康とは幼友達の間柄。関ヶ原の戦いの前哨戦、伏見城籠城戦で奮戦。

大久保忠世 1532年 三河国上和田郷生まれ(岡崎市)
若年時より家康の父広忠に仕える。三方ヶ原の戦いや長篠・設楽原の戦いで活躍。

平岩親吉 1542年 三河国額田郡坂崎村生まれ(幸田町)
家康とは幼友達の間柄。家康長男信康、九男義直の傅(守)役を務めた。

徳川家康と三河武士の絆

文 小和田 哲男
(静岡大学名誉教授)



▲「徳川十六神将図」(大樹寺蔵/岡崎市):家康を中心に初期の武功派の家臣十六名を描く。酒井忠次・本多忠勝・榊原康政・井伊直政の四天王に加え、松平康忠・高木清秀・内藤正成・大久保忠世・大久保忠佐・服部正成・鳥居直忠・鳥居元忠・蜂屋貞次・平岩親吉・渡邊守綱・米津常春が描かれている。

「徳川十六将図」と

「徳川二十将図」

「徳川十六将図および「徳川二十将図」という図が伝わっている。十六将図の場合には、家康を上部真ん中にしてその下に十六人、二十将図の場合には、二十人が描か

れている。家康家臣「ベスト16」および「ベスト20」というわけで、そのどちらにも入っているのが、酒井忠次・榊原康政・本多忠勝・井伊直政のいわゆる「四天王」である。このうち、井伊直政を除く三人が三河出身の三河武士である。そのほか、鳥居元忠・本多正信・

平岩親吉・大久保忠世らも、いずれも三河譜代というわけで、家康家臣団の中心が三河武士だったことが明らかである。三河武士というと、「大のよな忠誠心」といった表現がある。大久保彦左衛門忠教の著わした『三河物語』に、「よくてもあしく

ても御家の犬」とあるのが出典と思われるが、三河武士といえは、「犬のような忠誠心をもった武士」の代名詞のようないわれ方をしており、そのことを実際に示したのが、元龜三年(一五七二)二月二十二日の三方ヶ原の戦いの際の、家康家臣たちの行動である。

家康の身代わりとなって

死んでいった家臣たち

家康が武田信玄と戦った三方ヶ原の戦いの際、家康は八〇〇〇いた家臣の一割にあたる八〇〇〇人を失っているが、そのうちの何人かは、家康の身代わりとなって、「影武者」のような形で死んでいったといわれている。その一人が夏目吉信で、彼は高齢だったので、この日は浜松城で留守を預かっていたが、「家康様が負けて逃げてくるところだ」という情報を耳にするや否や、自分の愛馬にまたがって三方ヶ原に迎えに出

たところ、うまい具合に家康とすれちがいで、そのとき、自分は馬を降りて、その馬に家康を乗せて、浜松城にもどらせている。その代わり、夏目吉信はそこで武田の兵に首を取られていた。また、鈴木久三郎という家臣は、家康から采配を奪い、家康になり代わって敵中に留まって時間かせぎをして家康を逃がし、やはりそこで首を取られている。こうした家臣たちの犠牲によって生きのびた家康は、以後、「家臣こそわが宝」といったいい方をするようになる。

敵対した者も赦す

家康の度量

もともと、家康と三河武士との絆はいつも強固だったわけではない。永祿六年(一五六三)から翌七年にかけての三河一向一揆のときには、家康の家臣でありながら、一揆側に属する者もあり、実際に戦っていた。その一人が本多正信であるが、のち、赦され、家康の腹心として帷幄に加わっていることは周知の通りである。

また、家康は、武田信玄とともに今川氏を滅ぼしたときには今川氏の遺臣を、織田信長とともに武田氏を滅ぼしたときは武田氏の遺臣を、豊臣秀吉とともに北条氏を滅ぼしたときは北条氏の遺臣を自己の家臣団に取り込んでいたのである。

著者プロフィール



小和田 哲男 おわだ てるお

一九四四年静岡市生まれ。早稲田大学大学院文学研究科博士課程修了。現在、静岡大学名誉教授、文学博士。NHK大河ドラマでは二〇一四年「軍師官兵衛」(二〇一七年、おんな城主直虎)、二〇二〇年「麒麟がくる」、二〇二三年「つるぎを奪った神将」の時代考証を担当。著者に「戦国武将を育てた神僧たち」(軍師・参謀―戦国時代の演出家たち)など。



▲三河武士のやかた家康館(岡崎市):家康の事績と三河武士の活躍をわかりやすく展示する資料館(※2023年1月21日から2024年1月8日までは大河ドラマ館として運営)



▲「長篠合戦図屏風」部分(浦野家旧蔵/豊田市郷土資料館蔵):家康を中心に三河武士たちの活躍が描かれている。

尾張

尾張は、愛知県の北西部エリア。戦国の頃は、ワシが生まれ、各地を駆け巡ったエリアじゃ。「桶狭間の戦い」や「小牧・長久手の戦い」ゆかりの城や古戦場が多数あるぞ。



のぶながくん



犬山城

木曾川沿いの断崖絶壁に築城された平山城。小牧・長久手の戦いの際には秀吉が入城。江戸時代以降は、尾張藩付家老成瀬家が城主を務めた。現存天守は国宝五城の天守の中でも最古の様式。天守最上階には廻縁と高欄かめぐり、周囲の景色を眺めながら実際に歩ける。また、城の南側には城下町の遺構が広がる。江戸時代の町割りが残る中、江戸期から昭和期までの町屋や屋敷が点在する。食べ歩きも楽しい。



所 犬山市 犬山北古券6512
☎ 0568-6111711



日本庭園 有楽苑

織田信長の弟、有楽斎(長益)が京都建仁寺の塔頭正伝院に建てた茶室如庵、旧正伝院書院(国宝茶室如庵・旧正伝院書院)



所 犬山市 犬山御門先1
☎ 0568-6114608



秀吉が攻めあぐねた家康の陣城 小牧山城

永禄六年(一五六三)、織田信長はじめて自ら築城した城。近年発掘調査が進み新発見により近世城郭の原点ともされる。小牧・長久手の戦いの際、羽柴秀吉と対決した徳川家康が陣城として整備。空堀・土塁の遺構が残る。山頂の「小牧市歴史館」・山麓の「れきしるこまき」を併せて見学すると理解が深まる。

所 小牧市堀の内1-1
☎ 05681720712
(小牧市歴史館)
☎ 0568148-4646
(れきしるこまき)



長久手の戦いが学べる資料室 古戦場公園

羽柴(豊臣)秀吉と徳川家康が対決した小牧・長久手の戦いの局地戦のひとつ、「長久手の戦い」決戦の地。公園内の郷土資料室では戦いに関する資料をわかりやすく展示している。

所 長久手市武蔵塚204
☎ 0561631111
(長久手市郷土資料室)



茶室は、国宝茶室如庵を模した建物 色金山歴史公園

小牧・長久手の戦いの局地戦のひとつ、「長久手の戦い」で徳川家康が最初に着陣した場所。山頂には家康が軍議の際、腰をかけたとい

わる床机石が残る。展望テラスや茶室も整備されている。

所 長久手市 岩作色金山37-1
☎ 05616113131
(色金山歴史公園茶室管理棟)



大軍相手に二百名で立ち向かった城 岩崎城

小牧・長久手の戦いの際、家康に与した丹羽氏次の弟氏重が守備した城。



本丸の井戸跡も残っている

所 日進市 岩崎町市場67
☎ 0561730825
(岩崎城歴史記念館)



蟹江城

小牧・長久手の戦いの局地戦のひとつ、「蟹江合戦」の主舞台。城は秀吉方に一時占拠されたが、家康方が反撃し奪回。戦いの経緯は歴史民俗資料館の展示資料に詳しい。



所 犬山市 犬山北古券12
☎ 0568-6116000
(犬山駅観光案内所)



近世城下町のルーツは小牧

現在の日本の多くの都市は近世の城下町を基盤とし、その上に現在の都市が形成されている。その城下町は戦国時代に端を発するが、武士や商人、職人たちを計画的に集住させた近世城下町は、かつては安土城の城下町がルーツとされてきた。しかし、近年信長が安土城以前に築いた小牧山城の城下町こそがその本命と注目されている。発掘調査によれば計画的な町割りや「背割水」という排水設備の遺構が発掘されているとのこと。



現在の日本の多くの都市は近世の城下町を基盤とし、その上に現在の都市が形成されている。その城下町は戦国時代に端を発するが、武士や商人、職人たちを計画的に集住させた近世城下町は、かつては安土城の城下町がルーツとされてきた。しかし、近年信長が安土城以前に築いた小牧山城の城下町こそがその本命と注目されている。発掘調査によれば計画的な町割りや「背割水」という排水設備の遺構が発掘されているとのこと。



尾張



信長はこの城から、桶狭間に出陣した！

清洲(清須)城

清洲(清須)は戦国時代、尾張の中心地として栄え、城は織田信長をはじめ数多くの武将が城主を務めた。現在、五条川東岸には城の歴史を展示する天守風資料館(清洲城)が建ち、西岸には発掘された石垣の復原展示や古城址が残る。



所 清須市朝日城屋敷1-1
052740917330



南大門は愛知県内最古の楼門

甚目寺観音

(鳳凰山甚目寺)



法隆寺や四天王寺につぐ国内有数の歴史ある寺院。尾張四観音のひとつで、徳川家康が名古屋城の鬼門の方向にあたる四つの寺院を「尾張四観音」と定め城の守護とした。南大門の仁王像はあま市二ツ寺に生まれた福島正則が清洲(清須)城時代に奉納したもの。

所 あま市甚目寺東門前2-4
052744213076



阿波徳島の殿様に
なつても故郷を忘れず

日輪山曼陀羅寺

豊臣秀吉に仕えた蜂須賀家政(小)



江戸時代、東海道の旅人も立ち寄ったそうなの

桶狭間古戦場伝説地

桶狭間の戦いで今川義元が討ち取られた場所といわれる(国史跡)。江戸時代に建立された義元墓碑、今川家重臣の子孫が建てた桶狭間甲古碑、家臣たちの討死地を示す七石表などがある。



所 豊明市栄町南館1-1
05279218317
豊明市生涯学習課



国家に異変があると汗をかくお地蔵様を安置

興化山長光寺

境内の真ん中には六角の円堂がたまたみ、中には本尊である鉄造地蔵菩薩立像が安置されている。鉄地蔵は通常非公開。事前申込み拝観可。織田信



蔵菩薩立像が安置されている。鉄地蔵は通常非公開。事前申込み拝観可。織田信

長が茶の湯の際に取り寄せたとされる「臥松水」の井戸跡がある。

所 稲沢市六角堂東町3-28
0586713213971



信長が生誕した城

勝幡城

織田信長生涯の城。織田信定(信長祖父)によって築かれたが江戸時代の河川工事で消滅。城域は稲沢市から愛西市にまたがったとされる。名鉄勝幡駅北口には推定復元模型が展示されている。



所 稲沢市平和町城之内地区
所 愛西市勝幡町五俣入2266-4
0586733211111
稲沢市役所生涯学習課



朱塗りの社殿が左右対称に並ぶ様は、壮観！

津島神社

疫病災難除けの牛頭天王信仰の総本社。信長をはじめ、秀吉、松平忠吉(家康四男)にも厚く信仰され社殿の造



津島市

嘗などが行われた。本殿には織田木瓜、織田家、五三桐、豊臣家、三葉葵(徳川家)の各家紋が見られる。

所 津島市神明町1
0527126132216



一豊が出生した城は、今は小学校

黒田城

織田信長、豊臣秀吉、徳川家康に仕えた武将・山内一豊の出生地のひとつとされる。現在は小学校敷地。冠木門が建つ。小学校の西方にある木曾川資料館では黒田城の絵図や一宮市ゆかりの戦国武将を紹介している。

所 一宮市木曾川町黒田宇古城
05866289131
一宮市観光協会



木曾川資料館

所 一宮市木曾川町黒田
宇宝光寺東18-1
058668715197



本堂天井、壁面の絵も見どころ

建雲山龍潭寺

岩倉織田家の菩提寺。信長に敗れた城主織田信安の位牌を安置する。小牧・長久手の戦いに際し、徳川家康が滞りしたとされている。



岩倉市

所 岩倉市本町北門前1-8
05891372062



中国風の靈廟建築は独特の雰囲気

源敬公廟

徳川家康の九男・義直(尾張徳川家初代)が定光寺の地の風光を愛し、自らの廟所と定めた。佛教を好んだ義直らしく帰化明人の手による靈廟は佛教式建築。*源敬公廟は、定光寺に隣接する。



所 瀬戸市定光寺町373
05618512730





ひでよしくん

名古屋

名古屋は、わしのうまれ故郷だがや。上様(信長)も縁深く、又左殿(前田利家)も、虎之助(加藤清正)も同郷じゃ。しかし今の名古屋の発展は家康殿が名古屋城を築いてからじゃ。見事なり!



二十世紀によみがえった城郭御殿の最高傑作

名古屋城

豊臣家へのならみと備えを目的に徳川家康が天下普請で築いた名城。家康は築城とともに城下町も整備し、これにより尾張の首府は名古屋に移った。現在、天守は閉館中だが、平成三十年(二〇一八)に完成した本丸御殿が見どころ。建物各所に光る伝統工法の技と各部屋を飾る狩野派絵画の障壁画からは、徳川將軍家の威光と近世武家文化の美意識を堪能できる。

名古屋市中区本丸1-1
052-231-1700



城見物の後は名古屋グルメに舌つづみ金シャチ横丁

名古屋城正門前と東門前に展開するグルメ横丁。なごやめしの定番、老舗が揃う義直ゾーンと名古屋グルメをリードする気鋭の店舗が勢ぞろいする宗春ゾーン。二つのエリアで城下町の賑わいを再現している。

名古屋市中区二の丸1
宗春ゾーン
名古屋市中区三の丸1
(義直ゾーン)
052-951-0788



義直ゾーン



宗春ゾーン

家康遺品や至高の大名道具がそろった

徳川美術館

徳川家康の遺品を中核とする尾張徳川家代々の遺愛品をはじめ、信長・秀吉ら天下人ゆかりの所蔵品や、国宝「源氏物語絵巻」、国宝・重文の刀剣、武具、茶道具など多様な大名道具を展示する。

名古屋市中区徳川町10017
052-231-6262



四季折々の風情を 楽しむ日本庭園

徳川園

尾張徳川家二代光友の隠居屋敷を起源とし、平成十八年(二〇〇四)に整備された池泉回遊式庭園。江戸期大名庭園の形式とともに新緑や紅葉、牡丹や花菖蒲など四季の花々が楽しめる。

名古屋市中区徳川町10001
052-231-8988



草薙神剣を ご神体とする古社

熱田神宮

景行天皇四三年(一一三)に創建。古くから「熱田さん」の名で崇敬される古社。数多くの武将たちの信



戦国一の大出世人
秀吉の生誕地

豊國神社

明治十八年(一八八五)に中村公園内に創建。祭神に豊臣秀吉、摂社に加藤清正を祀る。秀



仰も集めた。桶狭間の戦勝を感謝した信長が寄進した築地塀、信長堀の他、熱田神宮の所有する約四五〇口の刀剣を毎月入れ替えて展示する剣の宝庫、草薙館が新たに開館した。

名古屋市中区熱田区神宮1-1
052-2671-4151



入場無料!
充実の戦国資料館

名古屋市中区中村村 秀吉清正記念館

織田信長の登場から豊臣家滅亡まで、さらに加藤清正ら尾張の武将たちに
ついて絵画、工芸、文書などの資料や映像などで紹介する資料館。秀吉の「馬蘭後立兜」、清正の「蛇目紋長烏帽子形兜」のレプリカも展示。



名古屋市中区中村町新木
25 中村公園文化プラザ2階
052-411-0003



名古屋



ここが戦いの
クライマックスの地



桶狭間古戦場公園

織田信長と今川義元が戦った桶狭間の戦いの激戦地。織田軍に攻められ討ち取られた義元最期の地。園内には、信長・義元の銅像やジオラマ、戦いの紹介動画が視聴できるARマーカーが設置され、他にも旨洗いの泉触ると熱病に罹ると伝わる馬つなまね松などがある。

所 名古屋市長区桶狭間北3
052-755-11003
桶狭間古戦場観光案内所



若き家康、
ミッション大成功！

大高城

桶狭間の戦いの前哨戦において、今川軍に属していた若き徳川家康（当時は松平元康）が兵糧入れを行った城。曲輪跡や空堀の遺構が残る。城下の道筋は戦国の名残りで丁字路や細い路地が入り組む。

所 名古屋市長区大高町城山
052-755-3242
（天高観光案内所※土日のみ）



絞り文化を伝える
日本遺産のまち

有松の町並み



有松は尾張藩によって設けられた茶屋集落が起源。東海道を往来する旅人が増えるに伴い有松の絞商たちは店頭販売を行うため間口の広い主屋を街道に面して建てた。今日も切妻屋根が連続する美しい町並みを形成し、広重の浮世絵そのままの風景が楽しめる。

所 名古屋市長区有松3008
052-621-0111
有松鳴海絞会館



武将のふるさとコラム②

有松・鳴海絞り事始め

慶長6年(1601)、徳川家康の命により江戸と京を結ぶ東海道の整備がはじめられた。このうち池鯉鮒宿(知立市)と鳴海宿(名古屋)の間は二里三十町(約11.1キロ)の距離があり、往来する幕府役人や旅人は難儀していた。そのため尾張藩では入植者を募り旅人の休息を提供する茶屋集落を設置した。これが有松のはじまりだが、有松の地は耕地に乏しく茶屋集落として営みにも限界があった。

慶長15年(1610)、名古屋城築城に参じた有松の竹田庄九郎は、九州豊後(大分県)の絞りに着想を得て、有松・鳴海絞りを考案。庄九郎が生み出した絞り染めは、江戸中期以降、東海道の旅人の土産物として人気を呼び大繁盛した。豪壮な建屋が並ぶ町並みはその繁栄と絞り文化を今に伝えている。



有松・鳴海絞り(名古屋市)

武将のふるさと愛知 武将・姫ゆかりの モノがたり

名古屋編

武将のふるさと愛知では、武将や姫ゆかりの愛用品や先祖顕彰の品々が数多く伝えられている。通常公開の品から特別公開のみの名品までその一部を紹介。

いろいろおどしに まいどうくそく 色々威二枚胸具足

名古屋市秀吉清正記念館蔵(P.14)

伝豊臣秀吉所用の甲冑。兜は表面に銀箔を押し、後立は法具の弘子を表している。豊臣秀吉正室北政所の甥の旗本木下家に伝来(特別展のみ公開)。

052-411-0035



刺繍ピロードマント陣羽織

名古屋市秀吉清正記念館蔵(P.14)

伝豊臣秀吉所用の陣羽織。舶来の裂である起毛されたピロードを用いたマントを、陣羽織として仕立て直した。全面に金糸や紺糸で龍、唐草、人物をあしらっている。旗本木下家に伝来(特別展のみ公開)。

052-411-0035

おもだか 天正沢瀉大判

貨幣・浮世絵ミュージアム

豊臣秀吉が作らせた天正沢瀉大判。裏面中央におもだか(池や沼に生える植物)の紋が打たれている。裏の墨書きは所持人で、秀吉から大名に下賜され、手形の裏書と同様に手に渡ることと名前や花押が記されていた。

所 名古屋市中区錦3-21-24
三菱UFJ銀行名古屋ビル1階
052-300-8686



徳川家康三方ヶ原戦役画像 徳川美術館蔵(P.14)

従来は、徳川家康が三方ヶ原の戦いの敗戦を肝に銘じ自戒のため描かせたとされ、別名「蟬像」とも呼ばれた。しかし史料的な根拠がなく、近年は、目を見開き歯を見せる忿怒の表情や片足を上げ頬に手を当てる「半跏思惟」の姿から家康を神として祀る礼拝像であったという説が提起されている(2023年夏「徳川家康-天下人への歩み-」にて公開予定)。

052-935-6262



むらさぎあおいもんつきあおい 紫地葵紋付葵の葉模様辻ヶ花染羽織

徳川美術館蔵(P.14)

「辻ヶ花」は、室町時代後期から江戸時代初期にかけて流行し「まぼろしの辻ヶ花」とも呼ばれた絞り染め。舶来の希少な生地を用いた武将が多い中、家康は国産の辻ヶ花染の胸服を愛用したという。高貴な紫の地に二葉葵が散らされた意匠が特徴的。重要文化財(2023年夏「徳川家康-天下人への歩み-」にて公開予定)。

052-935-6262



くまげうえくろいとおどしくそく 熊毛植黒糸威具足

徳川美術館蔵(P.14)

徳川家康所用の具足。桐製黒漆の大きな水牛の角を象った脇立が兜の両側に高く突き出し、全体に熊の毛皮を貼り付け、黒糸で威している。尾張徳川家蔵帳には「東照宮(家康)御召」とあり、名古屋城小天守内に特別の場所を設け安置していた。

052-935-6262

信長、常滑焼を衰退させず

天正2年(1574)、織田信長は「尾張領國中、瀬戸以外に陶窯を禁ず」という朱印状を出した。従来これによって常滑焼が壊滅的打撃を受けたと解釈されてきた。しかし、現在この説は否定されている。どうやら瀬戸以外で焼いたものを瀬戸焼と称することを禁じた、ということらしい。



土管坂(常滑市)



阿久比町産紫菀



於大ゆかりの花かつみが
色鮮やかに咲く
「花かつみ」とは、野花しょうぶのこと。於大が家康の武運長久を願う、花かつみの「かつ勝つ」に思いを捧げたとされる。一時は幻とされたが保存会の努力により六月に紫色の花を咲かせている。

所阿久比町大字草木千草池1
05691481111
阿久比町産紫菀観光課



常滑市役所



徳川三代将軍の
母が最初に嫁いだ城
大野城
織田信長妹お市の三女・江は、秀吉の命により大野城主佐治一成に嫁ぐが、後に離縁させられた。さらに羽柴秀勝(秀吉養子)、徳川秀忠(後、二代将軍)に嫁ぎ、三代将軍家光を産んだ。城址に建つ天守風展望台からは伊勢湾のパノラマビューが楽しめる。

所常滑市金山字城山
05691351111
常滑市役所

野間大坊
(鶴林山本御堂寺)
鎌倉幕府を開いた源頼朝の父義朝が眠る寺。義朝の墓や頼朝寄進の大門をはじめ、狩野探幽の手による「義朝最期図」を拝観できる客殿は伏見城の遺構を移築したものと伝わる。また羽柴秀吉との戦いに

鎌倉殿の父が眠る



美浜町

家康が危機脱出後に
立ち寄った寺
天龍山常楽寺
桶狭間の戦いの敗報を受けた家康(当時)は元康が、岡崎へ向かう途中立ち寄ったとされる。その際、家康から贈られた鍔物製の鞍と鏡が寺宝として伝えられる。さらに家康は本能寺の変後、伊賀越えて危機を脱した際も立ち寄ったといわれる。

所半田市東郷町241
05692110268



半田市

織田長益の
未完の土の城
大草城
信長弟・織田長益(有楽齋)が築いた城だが、城の完成を待たず長益は移封となり廃城となった。二の丸を囲む土塁や堀がほぼ良好な形で残る。本丸跡地に建つ天守風展望台からは伊勢湾を一望できる。

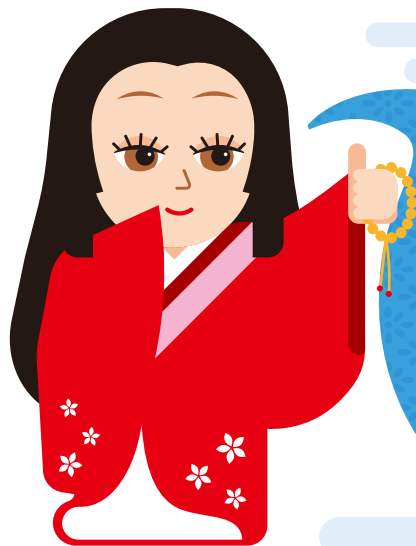
所知多市大草字
東屋敷11011
05621333111
所知多市緑花の推進課



知多市



敗れた信長三男織田信孝の墓もある。
所知多郡美浜町野間東島50
056918710050



おだいちゃん



わたしの故郷・知多エリアは、はるか昔から人やものが盛んに行き交った海の道。
嫡男の家康殿も、桶狭間の戦いの前や本能寺の変の危機の際に訪れたとか。

知多



宇宙という
壮大な山号を持つ寺
宇宙山乾坤院
戦国期、尾張・三河国境から知多半島にかけて勢力を誇った緒川城主水野家の菩提寺。総門は緒川城の遺構といわれる。水野家四代の墓所、歴代の位牌を祀った堂、於大ゆかりの稲荷社などがある。



東浦町



乾坤院付近の散策スポット
於大公園・於大のみち
乾坤院の北東部に隣接する広大な自然公園。四季折々の花や野鳥が集う。公園の南を流れる明徳寺川沿いには於大のみちと名付けられた歴史散策路がある。沿道には約400本の八重桜が植えられている。

東浦町

所知多郡東浦町緒川沙弥田4
056218312506



所東浦町大字緒川字沙弥田21
056218416166
於大公園こはな庭



徳川家康生母が
生まれた城
緒川城
水野氏の居城跡。於大の生誕碑が建ち、土塁の一部が残る。
所知多郡東浦町緒川古城
05621821188
東浦町郷土資料館



東浦町



坂部城
徳川家康生母・於大は、松平広忠(家康父)と離縁させられた後、坂部城主久松俊勝(長家)と再婚した。桶狭間の戦いに向かう家康(当時)は元康がこの地を訪ね、母と再会したと伝わる。曲輪跡や土塁が残る。
所阿久比町大字卯坂字栗ヶ木谷321
05691481111
阿久比町教育委員会社会教育課

阿久比町



八丁味噌事始め

豆味噌は古くから東海地方で造られていた。桶狭間から落ちのびた今川義元の家臣が岡崎の寺で味噌造りを学んだ。その子孫が岡崎城より西へ八丁(約870m)の距離にある旧八丁村(現八帖町)で味噌屋を創業したのが八丁味噌の起源。創業地では今なお伝統製法による味噌が造られている。



味噌蔵(岡崎市)



徳川将軍家、松平家の菩提寺。桶狭間の戦いに敗れ岡崎に逃げ帰った若き徳川家康(当時松平元康)は、大樹寺で自書を考えたが住職から「厭離穢土欣求浄土」と教え諭され思いとやまった。この言葉は家康

成道山大樹寺

岡崎市



の旗印にもなった。家康をはじめ歴代将軍の等身大の位牌が安置されている他、家康祖父が建立した大宝塔、岡崎城天守を望める伽藍配置など見どころも多い。

新岡崎市鴨田町広元5-1
0564-211-3917



家康は出陣前に必ず参詣した

伊賀八幡宮

岡崎市



安城松平家の氏神。徳川家康は、大きな合戦の時には必ず参詣したといわれ、徳川家の武運長久・子孫繁栄の守護神とされた。家康が造営した本殿を三代将軍家光が増改築し、東照大権現を祀った。本殿、拝

少年時代の家康が学問にはげんだ寺

岡崎市



家康が幼少の頃、手習いや学問にはげんだ寺。硯箱、机などの遺品の

新岡崎市明大寺町耳取4-4
0564-511-2930



手相までわかる家康の手形は必見。

二村山法蔵寺

岡崎市



他、境内には、六角堂開運勝利観音、東照権現宮、家康ゆかりの御草紙かけ松、おてならい井戸、お手植えの桜など文化財も現存する。山腹には新選組・近藤勇のもとと伝わる首塚もある。

新岡崎市滝町山籠1-17
0564-146-2516



滝山東照宮

岡崎市



三代将軍徳川家光により岡崎城の鬼門を守護する滝山寺の境内に創建された。日本三大東照宮のひとつ。本殿のほか、拝殿、幣殿など国の重要文化財に指定されている。社殿内部も拝観可能。滝山寺は、運慶・湛慶作の聖観音・梵天・帝釈天三尊像を寺宝とする古刹。



新岡崎市本宿町寺山1
0564-148-2636



日光、久能山と並ぶ日本三大東照宮



殿随神門は国の重要文化財に指定されている。
新岡崎市伊賀町東郷中8-6
0564-261-789



朱塗り極彩色の楼門に圧倒される

岡崎市



もともとは松平家の氏神として松平郷に創建。徳川家康の誕生時には産土神とされた。江戸時代三代将軍家光が社殿を再建。本殿、幣殿、拝殿、楼門、神供所は国の重要文化財に指定されている。

六所神社

岡崎市



西三河

西三河エリアは、この家康の生まれ故郷であり、わしを支えてくれた三河武士のふるさとである。わが父祖たちがたどった

松平郷、安城、岡崎には松平・徳川のパワースポットが目白押しじゃ。



いえやすくん



二〇二三年一月、全面リニューアル!

岡崎城

岡崎市



徳川家康が生誕した城。天守内部は館内の展示内容を一新。ストーリー性ある展示、臨場感あふれるAR体験、魅力満載の映像シアターなど何度も訪れたくなる城に生まれ変わった。天守以外にも家康産湯の井戸や石垣、大河ドラマ館(三河武士のやかた家康館)など見どころ多数。

新岡崎市康生町5-6-1
0564-222-2122



二〇二三年一月より大河ドラマ館に変身!

三河武士のやかた家康館

岡崎市



二〇二三年一月から翌年一月までは大河ドラマ館としてOPEN! 一階、地階のスペースに出演者の衣装や撮影小道具の展示のほか、映像コーナーが設けられ、大河ドラマ「どうする家康の世界に彩られている。隣接する岡崎城天守や市内の家康ゆかりの史跡めぐりなど家康観光の出発点としてよ。

新岡崎市康生町5-6-1
0564-222-2122



西三河



家康の祖先、松平氏発祥の地

松平東照宮

豊田市

かつて松平郷松平氏の館跡地にこの地の八幡社と東照権現を合祀し創建。館跡の堀や石垣が残る。境内の産湯の井戸は松平家男子誕生の際に使われ、家康誕生時も岡崎城



本殿 天井画

まで早馬で運んだといわれる。四季の草花を描いた本堂の天井画も必見。

所 豊田市松平町赤原1-3
052655816221



本堂は日光東照宮造営に携わった幕府御大工の手による

本松山高月院

豊田市



松平家の菩提寺。徳川家康の祖先、松平氏初代と二代の墓所がある。家康をはじめ歴代将軍の手厚い保護を受けた。山門や本堂は三代将軍家光によって建立された。

所 豊田市松平町寒ヶ入4-4
052655816229



戦国期の山城の姿を忠実に再現

足助城

豊田市

三河と信州を結んだ街道を眼下に収める真弓山山頂に築城された。



復元事業が着々と進む

西尾城

西尾市



西尾城跡を歴史公園として整備。本丸丑寅櫓をはじめ、二の丸天守台、丑寅櫓、屏風折れ土塀などが復元され整備が進む。幕末京都に建てられ移築した旧近衛邸では西尾名産の抹茶サービス(二服450円)がある。

所 西尾市錦城町2-3-1
052635416758



吉良上野介が眠る寺

片岡山華蔵寺

西尾市



高家旗本の吉良氏の菩提寺。徳川家康の従兄弟にあたる吉良義定が創建。義定の會孫が上野介義央、地元では名君として親しまれている。毎年十二月十四日の命日には

義央の木像が公開される。



武田家、徳川家の争奪戦が繰り広げられた。発掘調査に基づく時代考証によって推定復元された建物が揃い、戦国時代の山城の実像を知るには最適である。

所 豊田市足助町須沢39-2
052656210770



織田、今川、松平氏の激戦地跡

安城城(安祥城)

安城市



徳川家康の祖先、安城松平家の居城跡。現在は城址公園として整備され本丸跡に大乗寺、二の丸跡に

八幡社、三の丸跡に安城市歴史博物館が建つ。周囲に土塁や堀跡が残る。

所 安城市安城町城堀3-0
052617716655



家康も手を焼いた三河一向一揆の拠点

雲龍山本證寺

安城市

若き徳川家康(当時は松平元康)が本願寺教団の門徒と争った三河一向一揆。その拠点のひとつ。太鼓櫓や堀を備えた造りは城郭伽藍とも呼ばれ貴重。

所 安城市野寺町野寺2-6
052669910221



家康の幼名「竹千代」命名の寺

東照山称名寺

碧南市

松平家ゆかりの寺。当山住職十五世一天和尚が徳川家康の幼名「竹千代」を命名した。周辺は宗派の異なる十軒の寺院が集中しており、大浜てらまち案内人による無料のガイドツアーも行われている。

所 碧南市築山町2-6-6
052691413655



三河国一宮で知られた

東海道の古社

知立神社

知立市

徳川家康の側室・お万(長勝院)は、知立神社神主の娘。家康との間に男子(双子)をもった。その



一人が秀吉の養子となった於義丸(後の結城秀康)。知立神社は、三河国一宮として崇められた名社。本殿をはじめとする六つの建造物が国の登録有形文化財。境内にある多宝塔は国の重要文化財となっている。

所 知立西市町神田1-2
052691810055



於大が一時住まいした屋敷跡

椎の木屋敷跡

刈谷市

徳川家康の生母である於大が、松平広忠(家康父)に縁されて実家水野家に戻された際、刈谷城外の高台に居住した。当時大きな椎の木が茂っていた。その名が付いた。現在は東屋と於大の方の座像を配した庭園として整備されている。

所 刈谷市銀座6-58-18
052666211037



於大がしばしば参詣した寺

神守山楞嚴寺

刈谷市

椎の木屋敷に居住していた於大が、しばしば参詣した。於大の姿を伝えた「伝通院画像」の他、ゆかりの品々が寄進されている。刈谷水野家はこの寺に帰依し、菩提寺とした。

所 刈谷市天王町6-7
05266211974



色鮮やか、

三河のあじさい寺

瑞雲山本光寺

幸田町

徳川家康を支えた松平分家のひとつ深溝松平家の菩提寺。この家は、江戸時代になって三河吉田、刈谷、丹後福知山、肥前島原と転封を繰り返したが歴代当主の遺体を必ず本光寺に運び埋葬した。累代の墓所が残る。

所 額田郡幸田町深溝内山1-7
052641621626



徳川家康と

武田信玄・勝頼

文 平山優(歴史学者)



▲設楽原古戦場(新城市):織田・徳川連合軍が陣を敷いた弾正山山麓に復元された馬防柵。



▲野田城 井戸跡(新城市):武田信玄は家康を撃破した後、東三河の野田城を攻めた。井戸の水源を断ち城を開城させたという逸話が伝わる。

その息子勝頼の鋭鋒も厳しく、天正三年(一五七五)までに、家康は領国の三分の二を失う痛手を受け、徳川家中からも武田に内通する動きがでるなど、危機の連続だった。

天正三年(一五七五)五月、家康は信長の援軍を受けて、武田勝頼を三河長篠合戦で撃破し、失地回復に努めることができるようになった。それでも、武田の実力は侮れず、遠江全域の奪回には、さらに五年の歳月が必要だった。

しかも、その間の天正七年(一五七九)、家康は、息子信康謀叛という事件に震撼する。信康は、五徳(信長息女)を正室としていたが、夫婦仲が悪かったという。そ

家康最大の敵

武田父子

徳川家康の生涯のなかで、武田信玄・勝頼父子との抗争に明け暮れた十四年間ほど苦難に満ちた時代はない。なぜなら、大國武田に、家康はいつ滅ぼされてもおかしくなかったからだ。永禄十一年(一五六八)、信玄と同盟を結び、今川氏真を滅ぼした家康だったが、今川領分割をめぐる信玄と決裂し、元龜元年(一五七〇)には、事実上の敵対関係に陥った。

家康は、信玄に対抗すべく、上杉謙信と同盟を結んだため、信玄の怒りは凄まじかったが、武田は

のころ、武田方より調略の手が伸び、何と家康正室築山殿までが関与していたという。信康は、父家康、義父信長に不満を抱き、武田と結んで叛乱を計画していたのではないかと推定されている。だがこれは発覚し、家康は信康と築山殿を処断した。家康にとって、生涯最大の痛恨事とされる信康事件の影にも、武田の姿が見え隠れしている。

武田が家康に残したもの

だが家康は、勝頼と対立した北条氏政と結び、武田を東西から挟撃にして、遠江高天神城などを奪回することに成功した。そして天正十年(一五八二)三月、武田勝頼は、織田・徳川・北条連合軍の一斉攻撃を受け、滅亡した。ここに強敵武田氏は消え去ったが、信玄・勝頼が育てた家臣らが多く生き残った。家康は、信長存命中は秘かに、本能寺の変後は公然と武田遺臣を召し抱え、軍事力と内政を充実させ、五力国を領有する大名へと成長していく。武田氏との十

当時同盟を結んでいた織田信長の面子を考慮し、徳川攻めを自重した。だが、元龜三年(一五七二)、信玄は信長と断交し、家康を攻め、反織田・徳川勢力とともに、西に向かう決断を下す。

なすすべない家康

元龜三年(一五七二)十月、信玄は三年間我慢してきた徳川攻めに踏み切る。それは、同盟国信長にも告げぬ奇襲であった。信長は激怒し、家康は戦う決意を固めたが、十一月、家康は三方原合戦でなすすべなく武田軍に撃破された。その後、信玄はまもなく病死したが、

四年に及ぶ戦いは、家康にとって苦しい試練であった。だがこれを勝ち抜き、武田遺臣を召し抱えることで家康は、豊臣秀吉と戦っても引けを取らぬ実力を保持することが出来たといえる。



著者プロフィール

平山 優(ひらやま ゆう)
一九六四年東京都新宿区生まれ。立教大学大学院文学部研究科博士前期課程史学専攻(日本史・修)専攻。専攻は日本中世史。山梨県埋蔵文化財センター文化財主事、山梨県史編纂室主査、山梨大学非常勤講師、山梨県教育庁学術文化財課主査、山梨県立博物館副主幹を経て、現在山梨県立中央高等学校(定時制)教諭。二〇一六年放送のNHK大河ドラマ「真田丸」二〇二一年の映画「信虎」二〇二三年NHK大河ドラマ「うすの家康の時代考証担当」主著に、「戦国大名領国の基礎構造」川中島の戦い「上下巻」天正壬午の乱増補改訂版、『長篠合戦と武田勝頼』、『検証長篠合戦』、『武田氏滅亡』など。

手筒花火事始め

手筒花火は東三河地方を中心に伝わる花火で、450年以上の歴史がある。揚げ手が花火の筒を腰の横に両手でしっかりとつかえるように持ち、巨大な火柱を噴出させ、最後に「ハネ」と呼ばれる炎が、大音響とともに足元に噴き出す勇壮な煙火だ。

この手筒花火は豊橋市の吉田神社が発祥とされているが、その原形は、情報の伝達手段である「のろし」と考えられている。「のろし」は古くは奈良時代の頃から使われ、戦国時代も盛んに利用された。観賞用の花火は、江戸時代の元禄期以降庶民に広まったといわれ、この地域が盛んになったのは、徳川家康が三河衆に火薬の製造をまかせたことが、花火の発展につながったとされている。



手筒花火(豊橋市)

所 新城市門谷字鳳来寺1
05336351004
(鳳来寺本堂)



所 豊橋市今橋町3
05332512430
(豊橋市観光振興課)



所 豊川市豊川町1
0533852300



鳳来寺山

麓から続く参道は一二五段。奥三河の自然を満喫。

新城市

於大井改修



ただつぐくん

豊川越しに眺めると絵になる城

吉田城

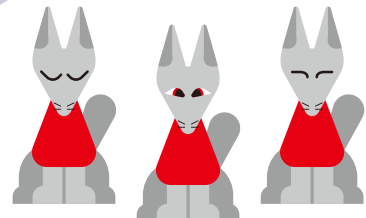
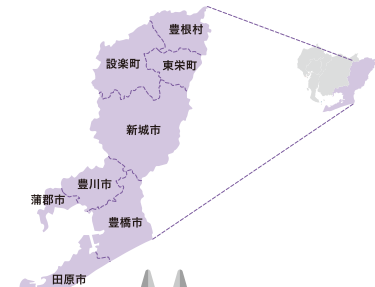
徳川家康の三河統一によって四天王筆頭の酒井忠次が城主を務めた。さらに秀吉の天下統一後には家康の娘婿・池田輝政が城主を務めた。石垣や土塁が数多く残る。

豊橋市

池田改修

東三河エリアは、長年吉田城主を任されたこの忠次にお任せあれ。この地は吾輩も活躍した長篠・設楽原の戦いをはじめ、三河武士が名を上げたゆかりの地が満載でいっぱい。

東三河



武田軍の猛攻に耐え抜いた城

長篠城

織田信長・徳川家康連合軍と武田勝頼が争った長篠・設楽原の戦いはこの城をめぐるおきた。堀、土塁が残る他、敷地内の長篠城址史跡保存館では合戦に関する資料を展示する。

新城市

徳川改修
徳川改修
徳川改修

所 新城市長篠字市場2211
05336320162
(長篠城址史跡保存館)



信長・家康vs勝頼が激突!

設楽原古戦場・新城市設楽原

歴史資料館

長篠・設楽原の戦いの最終決戦地。設楽原は史跡の宝庫。戦いに関する資料や火縄銃の展示を行う設楽原歴史資料館、古戦場跡地に復元された馬防柵、家康の本陣跡地(八剣神社)や家康物見塚などが点在する。

新城市

徳川改修
徳川改修
徳川改修

所 新城市竹広字信玄原552
053361210673
(新城市設楽原歴史資料館)



狐の石像が所せましと並ぶ塚は庄巻

豊川稲荷

豊川稲荷の通称で知られるが妙厳寺というお寺。庶民をはじめ織田信長、豊臣秀吉、徳川家康、今川義元ら戦国武将や文人らの信仰も集めてきた。境内にある山門は義元が寄進したもの。門前町では豊川いなり寿司の食べ歩きも楽しい。

豊川市



東三河



江戸時代後期の蘭学者・渡辺華山の資料が充実

田原城

渥美半島を領有した戸田氏の居城。今川義元に奪われたが、徳川家康が三河統一の際に攻略した。秀吉の天下統一後に近世城郭に生まれ変わった。

田原市

所 田原市田原町巴江1-1-1
☎053-127-1720



家康、城攻めに忍者を使う

上ノ郷城

三河統一を進めた徳川家康(当時は松平元康)によって攻略された。家康は城攻めに服部半蔵の父と伊賀忍者を使つたという。若き服部半蔵も初陣を果たしている。

蒲郡市

空堀や土塁が残る。
所 蒲郡市神ノ郷町
☎0536-61-1120
(蒲郡市観光協会へ予約)



巨星落つ!

武田信玄、終焉の地

宝雲山福田寺

武田信玄の終焉の地は諸説あるが、この寺もその一つ。天正元年(一五七三)、三河に侵攻した武田信玄が野田城攻囲中に病に冒され、本国に引き上げる途中、この寺で没したと伝えられる。信玄の墓といわれる信玄塚がある。

設楽町

所 設楽町田口字居立19
☎0536-62-1000
(設楽町観光協会)



展望檣からの眺めは絶景!

田峯城

長篠・設楽原の戦いに敗れた武田勝頼が落ちのびたが入城を拒否された逸話が残る。中世の城館を参考にした御殿や檣が模擬復元されている。

設楽町

所 設楽町田峯字城9
☎0536-64-5505
(設楽町観光協会)



武将のふるさと愛知 武将・姫ゆかりのモノがたり

西三河
東三河編

武将のふるさと愛知では、武将や姫ゆかりの愛用品や先祖顕彰の品々が数多く伝えられている。通常公開の品から特別公開のみの名品までその一部を紹介。

金陀美具足(複製) 岡崎市

三河武士のやかた家康館蔵(P.19)
総体が金泥または金箔で彩られているために金陀美具足と呼ばれている。家康が大高城への兵糧入れを行った時(当時は松平元康)に着用していた具足と伝わり、大高城兵糧入具足ともいわれる。原資料は久能山東照宮蔵。*三河武士のやかた家康館は2023年1月21日から大河ドラマ館を運営。 ☎0564-22-2122

鳥居強右衛門磔図(鳥居勝商磔殺図) 新城市

鳥居強右衛門は、長篠城主・奥平貞昌の家臣。武田軍の猛攻を受ける中、その包圍を抜け家康に援軍を要請。その帰路、捕らえられた。助命の条件に反し「援軍は来る」と叫び、磔にされたという。その武勇と忠義が称され描かれた図。 ☎0536-22-0673



信玄砲 新城市

宗堅寺蔵・新城市設楽原歴史資料館寄託(P.25)
三方ヶ原の戦いで徳川家康を敗走させた武田信玄は、家康に味方した菅沼定盈が籠城する野田城(新城市)を攻囲した。攻囲のさなか籠城側が武田信玄を狙撃したという説がある。その際に使用されたと伝えられる銃である。木部は失われ長大な銃身だけが残っている。 ☎0536-22-0673 (新城市設楽原歴史資料館)



東照大権現(徳川家康)坐像 岡崎市

大樹寺蔵(P.20)
徳川幕府の命により京都の七条仏師・康により正保4年(1647)頃に制作されたとされる。像高47cmほどあり、黒袍を身にまとい、右手に笏を執り、太刀を佩く東帯姿。この木像は江戸前期の家康を祀る東照宮信仰の高まりのなかで幕府によって作られた(拝観有料)。 ☎0564-21-3917

伝通院調度品(複製)

刈谷市歴史博物館蔵 刈谷市
於大(伝通院)が松平広忠から離縁されて刈谷に戻された際に持ち帰ったといわれる。寺伝によると、文禄3年(1594)に肖像画とともに楞嚴寺へ寄贈したと伝えられる。天目茶台(三ツ葉葵紋)、茶碗(三ツ葉葵紋染付)、白磁香炉のほか全部で5種ある。原資料は楞嚴寺蔵。(展示替えがあります。事前にお問い合わせください)。 所 刈谷市逢妻町4-25-1 ☎0566-63-6100



酒井忠次革羽織(複製) 豊橋市

吉田城鉄櫓展示(P.26)
酒井忠次が、長篠の戦いの際に鶯ヶ巣砦を奇襲した戦功により織田信長から拝領したもの。表は白地革、袖には黒・緋色ラシャで亀甲花菱紋がつけられ、裏地は赤絹地、見返しは金襴でつくられた陣羽織。原資料は公益財団法人致道博物館蔵。 ☎0532-51-2430 (豊橋市観光振興課)





からくり車山が
犬山城下町を練り歩く

犬山祭 犬山市

尾張徳川家の付家老犬山城主・成瀬正虎の命によって寛永12年(1635)に始まった針綱神社の祭礼。全国的にも珍しく全ての車山(13輛)にからくり人形を仕掛け、神社に奉納する。国重要無形文化財指定。ユネスコ無形文化財登録。

所 名鉄「犬山駅」西口よりメイン会場の犬山城前広場まで約20分
☎0568-61-6000



尾張・名古屋編



手筒花火はこの地からはじまった! 火柱が天をも焦がす 豊橋祇園祭 豊橋市

かつて吉田城内にあった吉田天王社(吉田神社)の神事。鉄砲伝来以降に手筒花火の奉納が行われた。江戸時代、三河では火薬の製造が奨励されその技術が民間に伝わり、吉田藩の庇護のもと発展した。7月第3金曜は吉田神社で神前手筒花火の奉納が行われ、土・日曜は豊川河畔で打ち上げ花火大会が開催される。

所 吉田神社内、豊川河畔、豊橋市街
☎0532-53-5528 (豊橋祇園祭奉賛会事務局)

エイ、エイ、オーの 勝風が鳴り響く 豊明市

桶狭間古戦場まつり

桶狭間の戦いで散った織田軍、今川軍の武者たちの供養祭。見どころは300名を超える武者たちが勇ましく勝鬨を上げ行進する武者行列や合戦再現劇。



信長も見た!

尾張津島天王祭り 津島市

日本三大川まつりのひとつ。津島神社の祭礼として600年近くの伝統を誇る。約500個の提灯をつけたまきわら船が天王川を行く姿は華麗で幻想的。織田信長もまつり見物したとか。国重要無形文化財指定。ユネスコ無形文化財登録。



所 津島神社・天王川公園
☎0567-28-8051 (津島市観光協会)



愛知が
もつと熱くなる!
勇壮華麗、
武将まつり、
武将イベント
武将のふるさと愛知
には、武将ゆかりの
伝統的なまつりの
ほか、武者行列、戦国
合戦をモチーフにし
た時代絵巻、エン
ターテインメントが
な武将イベントが
目白押し!
いざ、祭りの現場へ
参上すべし。



エイ、エイ、オー!

所 桶狭間古戦場伝説地、
高德院ほか
☎0562-92-8332
(桶狭間古戦場まつり
実行委員会事務局)



戦国三英傑ぞろい踏み! 信長、秀吉、家康が街中をゆく

名古屋まつり 名古屋市長

名古屋の秋を彩る最大の祭。まつりのメインとなる郷土英傑行列は、織田信長・豊臣秀吉・徳川家康の三英傑が姫や家臣団を従えて街中を練り歩く。山車揃や神楽揃、華やかなフラワーカーなども登場。会場では無形文化財「棒の手」公演や芸能公演など多彩な行事も開催。

所 久屋大通公園、オアシス21、名古屋城ほか
☎052-972-7611 (名古屋まつり協進会)



武将隊、忍者隊勢ぞろい! 戦国エンターテインメント

サムライ・ニンジャ フェスティバル 名古屋市長

サムライや忍者の世界を満喫できるエンターテインメントイベント。忍者修行体験や、全国から集まった武将隊・忍者隊によるステージイベント、大迫力の火縄銃実演や武将グッズ販売などが開催。

所 県営都市公園 大高緑地・若草山
☎052-954-6355 (愛知県観光振興課)



城をバックに五条橋上での 一斉射撃は大迫力!

清洲城信長まつり 清須市長

鉄砲隊による火縄銃演武や時代行列、武将隊やヒーローショーステージなど盛りだくさん。

所 清洲城周辺
☎052-400-2911
(清須市観光協会)



祭りイベント

武将ゆかりの

西三河・東三河編



戦国の轟音が、長篠城址に鳴り響く!

長篠合戦のほりまつり 新城市

長篠の戦いで倒れた織田・徳川軍、武田軍の将士の霊を慰めるために、両軍将士の紋入りのぼり数千本を献植して行うまつり。甲冑に身を固めた鉄砲隊による迫力ある火縄銃の演武、勇壮な長篠陣太鼓などが盛大に開催。



所 長篠城址
☎0536-29-0829
(新城市観光協会)



舞台は設楽原古戦場! よみがえる鉄砲戦

設楽原決戦場まつり 新城市

天正3年(1575)、織田・徳川連合軍と武田軍が戦った長篠・設楽原の戦い。その古戦場を舞台に火縄銃の演武や小・中学生による武者行列、子ども武者による馬防柵演武などが行われ、戦国絵巻を再現。

所 新城市設楽原歴史資料館付近
☎0536-22-0673 (新城市設楽原歴史資料館)



その炎は境内の温度すら熱くする!

滝山寺の鬼まつり 岡崎市

起源は鎌倉時代までさかのぼり、源頼朝が祈願のため始めたと伝えられている。春を告げ、天下泰平や五穀豊穡を祈るもので、正保4年(1647)、三代将軍徳川家光の時代に復活されて以降は徳川幕府の行事として盛大に行われるようになった。クライマックスの火まつりは迫力!

所 滝山寺本堂
☎0564-46-2296 (滝山寺)



家康公参上!
大河効果で例年以上の盛り上がり必至!

家康行列 岡崎市

起源は徳川四天王の本多忠勝を祀る映世明神(現龍城神社)の祭礼。公募で選ばれた家康を中心とした勇壮な武者、騎馬の絢爛豪華な行列が市の中心部を練り歩く。行進中には鉄砲隊と槍隊の演武も披露される。

所 伊賀八幡宮、乙川河川敷ほか
☎0564-64-1637 (岡崎市観光協会)

